

巻頭言

学生と一緒に考える「働く」、 「仕事」、「生き方」について

小川 勇気 (センター事業団埼玉事業本部事務局長/会員)

2019年度より始めました埼玉大学での寄附講義に関わる中で、私なりに感じたこと、考えたことについてまとめたいと思います。

まず初めに、この寄附講義は2019年度の後期の授業から始まり、当時より、後期の16回を使った連続講義でした。私が関わり始めた時点でカリキュラム内容の大枠は決まっており、このカリキュラムをどのように実現していくか？という半年であったと思います。初年度は、センター事業団の深谷エリアを1日かけて回るというフィールドワークと学生たちが半年かけて学んだことをスライドで発表するという中身が特に印象的でした。30名程の学生たちが、「地域と出会い働くことを考える」というこの講義の中で、学んだとされる内容の多くは、働く事への「不安と期待」であったと思います。不安という点については、給与、安定性、そもそも生活ができるのか？といったものでした。期待については、やりたいことができるというものがほとんどであったと思いますが、不安をもつ学生が多かったように感じ、これは、この5年間で、毎年学生が変わる中でも、大きく変化はありませんでした。この中で、私が感じたことは、学生の中で「働く＝お金

を稼ぐこと＝生活のため」というものが、ある程度の既定路線になっているということです。もちろん、現代社会の中において、まったくお金がない常態で生活をしていくことは不可能であると思う反面、しかし、これが、「働かなければ生活ができない」「生活するためには働かなくては」ということとイコールにしてしまってもよいのか？と違和感がありました。また、「働く」と一言で言っても、学生の中での「働く」は「賃金を得る」ということであり、この賃金もいくらあれば安心なのか？必要なのか？ということとは曖昧な印象でした。また、教員志望の学生が多く、大学を卒業してからの自身の生活として、仕事に縛られることへの不安や、生活のための賃金を得られるのかという不安を話す学生が多いという印象です。

ここで、私自身が考えたこととしては、日常的に「働く」「仕事」という言葉について、どのような事象がこれにあたるのか？を考え始めました。例えば、専業主婦の方を例にすると、多くの専業主婦は、家庭の中で家事という「仕事」をしています。これが「働く」に置き換えたときに、賃金の発生しない「働く」をしていると考えました。最近では、コロナ

禍を経て、飲食店で筒型のロボットが配膳の「仕事」をしています。彼らに賃金は発生していないと考えますが、「働いて」います。このように考えていくと、「働く」＝「賃金を得る」ということではなく、日常生活の中に、「仕事」や「働く」ということが点在していて、これに、賃金を得る物なのか、生活のため、誰かのため、自分のためなどの明確でもない区分けがあるのではないかと考えるようになりました。

学生たちと話していると、雇われなくてはいけない、学校を卒業したら、お金を稼がなくてはいけない、就職しなくてはいけない、そんな何かに追われているような感じを受けます。だからこそ、遊べるうちに遊ばなくちゃと話す方もいますが、それはそれとしても、やはり、学校生活を含めて、自分がどんな風に生きていきたいか、社会の中でどんな立ち位置にいたいのか？そのために、今、自分がやるべきことは何か？ということを考えるには、学生の時期というのは、とても大切な時期であり、また、学校を卒業してからも、常にこの問いは変わらず考え続けていくものと感じます。

寄附講義とすると、教えに行かなくてはという意識も多少はもちますが、特に

埼玉大学では単発ではなく、半期という長い時間で学生たちと考えあえる機会がありますので、自分自身の学びも含めて、毎年、楽しみに講義に参加しています。埼玉大学では、一時期、埼玉事業本部内の集会と講義をからめて、学生と組合員が交流する場も作りました。一回のことであるので、互いに、深く交流することはできませんでしたが、学生からすると、ワーカーズコープ内の事業所を知る機会および働く仲間の意識を知る機会となり、組合員の方々にとっては、普段はあまり交流しない、学生たちの学びを知る機会となりました。数名ですが、講義を通して、ワーカーズコープを知り、ワーカーズコープの現場に入職した学生もいます。講義と聞くとどうしても、何かを学ぶということだと感じてしまいましたが、埼玉大学を含めて、全国で行っている寄附講義を通じて、学生たちがワーカーズコープや組織だけではなく協同労働という働き方や労働者協同組合、組織に属していなくても地域で活躍されている団体の方々を知る機会が生まれていることは貴重であると感じます。誰かに雇われて働くだけではない、地域での仕事や働くということがこの寄附講義を通じて広がっていけば良いと考えます。